

氏名	徳 田 直 彦		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1720 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年12月31日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	胃癌における浸潤単核細胞の種類に関する研究 — 免疫組織学的検討 —		
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋	教授 赤木忠厚	教授 木村郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

胃癌症例において、癌病巣部の免疫担当細胞である浸潤単核細胞を、免疫組織学的に15種のモノクローナル抗体及び抗S-100蛋白抗体並びに抗リゾチーム抗体を用いて、機能的subpopulationの分類を行った。その結果、T細胞の多くはearly stageでは、対照群に比較して明らかに免疫反応を起しており、抗腫瘍性に働いているが、stageの進行と共に減弱していることが判明した。また組織学的に低分化型では、高分化型に比べ、OKT4陽性細胞を主体に、すべてのT細胞が低下していた。硬性型ではNK/K cellの減少を認め、他方癌先進部のリンパ球浸潤高度群ではNK/K cellとDRC1陽性リンパ濾胞の増加を認めた。非特異的免疫賦活剤OK-432の経内視鏡的な腫瘍内局注を行ったところ、IL-2 receptorを有する細胞やNK/K cell, dendritic reticulum cell 及びS-100蛋白陽性細胞が著明に増加した。このことはimmunomodulatorの経内視鏡的局注が、抗腫瘍能を有する免疫担当細胞を、活性化する可能性を示唆すると共に、臨床の場でも試みられるべきものと思われる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は42症例の胃癌を用いて免疫組織学的に検討したものであるが、癌病巣部における浸潤単核細胞をモノクローナル抗体や非特異的免疫賦活剤の腫瘍内局注により検討した結果重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。